

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：32404

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370439

研究課題名(和文) 日本語素名詞句/非素名詞句の形・意味・解釈

研究課題名(英文) Formal features and interpretation of plain/ non-plain noun phrases in Japanese

研究代表者

中井 延美 (NAKAI, Nobumi)

明海大学・ホスピタリティ・ツーリズム学部・准教授

研究者番号：30406384

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、日本語名詞句の基本形である「本」「子ども」「学校」のような形式そのものに不可視的に付随する働きと仕組みを明確にすることであった。研究代表者はこれまでの研究において、日本語には素名詞句と非素名詞句という二種類のタイプの名詞句の形があることを論じてきた。本研究では、名詞句はそれ自体が概念的意味を表すと同時に、素名詞句・非素名詞句という形でもって文中に現われることによって手続きの意味を表することに注目した。それらの名詞句が文中で指示的名詞句・非指示的名詞句として機能することと、名詞句の形式(素名詞句なのか、それとも非素名詞句なのか)を関連づけ、意味論的・語用論的に分析した。

研究成果の概要(英文)：Assume that each language has a nominal domain called XNP, which is the set of elements that are lexically or formally represented as noun phrases (Nakai 2013). The XNP domain could be subject to relatively little cross-linguistic variation, taking into account the linguistic universals. This study attempts to account for the way formal features of noun phrases are represented, showing the remarkable contrast between Japanese and English in terms of the way each noun-phrase form clips the features out of the XNP domain in the respective languages. This study argues that Japanese noun phrases do have formal features of plainness and non-plainness, and noun phrases, such as proper nouns, pronouns, plural nouns, and nouns accompanied by any determiner/numeral, are non-plain noun phrases. The study also illustrates how the formal features of noun phrases interact with the interpretation semantically and pragmatically.

研究分野：意味論・語用論

キーワード：素名詞句 非素名詞句 名詞句の形式特性 定的 不定的 指示性 英語の定表現 英語の不定表現

1. 研究開始当初の背景

(1) 従来の日本語研究の中で「(不)定名詞句」「(不)定表現」などの言い方が用いられる場合には、英語など冠詞を有する言語における名詞句の「定 (definite)・不定 (indefinite)」の区別に依拠して使用されていることが多い。そのような (in)definiteness の区別は文法カテゴリーである傍ら、意味論と語用論のレベルに深く関わるカテゴリーである (Declerck 1985)。冠詞を持たない日本語では (in)definiteness を名詞句の文法カテゴリーとして見なさないのが一般的である。しかし、それは、日本語名詞句に文法カテゴリーがないと帰結されるものではない。研究代表者 (中井) は、日本語には名詞句の文法カテゴリーが「素名詞句 (plain NP)」と「非素名詞句 (non-plain NP)」という形で存在するのではなかないかという可能性を検討してきた。

(2) Lyons (1999) は、英語などの冠詞を有する言語では、(in)definiteness という概念は冠詞の存在に由来するものであり、冠詞はその本質的な意味機能としてそれらの概念を表現しなければならないと述べている。しかし、冠詞だけが definiteness という概念に固有の要素として結びついているわけではない。概念そのものは言語普遍的であり、その普遍性は冠詞の有無に左右されるものではない。庵 (1994) は、「定」という概念は「定冠詞の有無」といった形式上の問題以上の普遍性を持っていることを指摘している。

(3) 英語の名詞句の文法カテゴリーとは別に、日本語においては、非素名詞句が《定的な形》であり、素名詞句が《不定的な形》であることを明らかにすることを、本研究の出発点とした。

(4) 素名詞句が「本」「学生」「宿題」のように普遍名詞それ自体から成る名詞句であることに對し、非素名詞句は「本件」「某所」「東京」「太郎」「彼女」「それ」「国々」「子ども」「この本」「とある本」「3冊の本」といった名詞句である。素名詞句が素の様相を呈していることに對し、非素名詞句は素でない様相を呈している (つまり、固有名詞や代名詞であったり、名詞の前後に接頭辞・接尾辞・限定詞などが付加されていたりする)。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本語名詞句の基本形である「本」「子ども」「学校」のような形式そのものに不可視的に付随する働きと仕組みを明確にすることであった。研究代表者はそれまでの研究において、日本語には素名詞句と非素名詞句という二種類のタイプの名詞句

の形があることを論じてきた。本研究では、名詞句はそれ自体が概念的意味を表すと同時に、素名詞句・非素名詞句という形でもって文中に現われることによって手続き的意味を表することに注目した。また、それらの名詞句が文中で指示的名詞句・非指示的名詞句として機能することと、名詞句の形式 (素名詞句なのか、それとも非素名詞句なのか) を関連づけ、意味論的・語用論的に分析することも本研究の目的としていた。

3. 研究の方法

(1) Definiteness (定性) という概念と名詞句の指示性に関する先行研究を見直し、そこから日英語における定的・不定的な名詞句の形と、それらと相互作用する意味機能としての指示性・非指示性との関係进行分析するために必要な諸概念を整理した。

(2) (1)で行った名詞句の定的・不定的表現と指示性についての意味論的考察に加えて、語用論的考察を行った。さらに、日本語における素名詞句と非素名詞句について、データを用いて分析し、それらを英語名詞句の定表現・不定表現との差異や類似性をもとに整理した。

4. 研究成果

(1) 一般的に、日本語研究のなかで「(不)定名詞句」「(不)定表現」などの言い方が用いられる場合には、英語など冠詞を有する言語における名詞句の「定 (definite)・不定 (indefinite)」の区別に依拠して使用されていることが多い。そのような (in)definiteness の区別は文法カテゴリーである傍ら、意味論と語用論のレベルに深く関わるカテゴリーであることを前提に、日本語においても、日本語独自の視点で、名詞句を定的な形 (definiteness-oriented type) と不定的な形 (indefiniteness-oriented type) に区別する必要性を検討した。

(2) 研究代表者は、前者を素名詞句 (すめいしく) 後者を (ひ-すめいしく) と捉え、「本」「学生」「宿題」などは素の様相を呈していることに對し、「本件」「某所」「東京」「太郎」「彼女」「それ」「国々」「子ども」「この本」「とある本」「3冊の本」といった名詞句は素でない様相を呈するものであると区別した。

(3) 英語における definiteness という文法的な形式区分は、名詞句を定的な形と不定的な形に分けたものである。その定的/不定的という区別は、意味論上の認識とも、語用論上の解釈とも異なる、純粋な《形》の上での特性とみなされる。表1では、名詞句が定的な形と不定的な形に区別される言語現象を日英語で対照させたものである。

表 1. 日英語名詞句の形式特性

| | 日本語 | 英語 |
|---------------|-----------------------|---------------------------|
| 名詞句の定 的な形 | 非素名詞句 Non-plain NP | 定名詞句 Definite NP |
| 名詞句の不 定的な形 | 素名詞句 Plain NP | 不定名詞句 Indefinite NP |

この対照表の理解で注意すべきは、英語の定名詞句に相当するものが必ず日本語の非素名詞句であるというわけでは決していないということである。同様に、英語の不定名詞句が日本語の素名詞句に必ず相当するということでも決していない。

(4) 名詞句はそれ自体が概念的な意味を表すと同時に、素名詞句・非素名詞句という形でもって文中に現われることによって手続きの意味を表す可能性を検討した。

(5) 英語の冠詞に関する先行研究では、the がついた名詞は対象を指示しようとする、本来的に指示的な名詞句であることが前提にされているものが多かった。本研究は、このような前提の妥当性を問題にし、英語冠詞の定・不定の区別と、それに関連づけて日本語の名詞句を捉える場合の諸問題を整理した。

(6) 名詞句の形式特性という文法カテゴリーを言語普遍的に捉え、冠詞をもたない日本語の名詞句にも文法カテゴリーがあることを明らかにした。

(7) 名詞句の定的・不定的な形と指示性の関係に関する日英語間での不均衡さに仕組みが確認できたことで、特に、日本の中学・高校での英語教育(中でも、日本人学習者が一般的に不得手とする冠詞や名詞の単数/複数についての指導・学習)に、実際的に応用・還元することが可能になった。

<引用文献>

Declerck, Renaat. 1986. Two notes on the theory of definiteness. *Journal of Linguistics* 22:25-39.

庵 功雄. 1994. 「定性に関する一考察: 定情報という概念について」『現代日本語研究』1:40-56.

Lyons, Christopher. 1999. *Definiteness*. Cambridge University Press.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

中井延美 「「ホスピタリティ」という概

念について 発話解釈のメカニズムとモンゴルのハイジから考える」日本英語文化学会会報9号, pp. 3-8. (2015年)

中井延美 「「手をつなぐ」の意味構造と「手」の意味」『応用言語学研究』No.16, pp.117-129. 明海大学大学院応用言語学研究科紀要 (2014年) [査読有]

中井延美 「言語研究の要素を導入した大学英語教育」『異文化の諸相』No.34, pp.5-18. 日本英語文化学会(2013年) [査読有]

中井延美 「待遇名詞句表現の指示性と形式特性について」『Journal of Hospitality and Tourism』明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部研究紀要Vol. 9, pp.66-73. (2013年) [査読有]

〔学会発表〕(計8件)

中井延美 「すっぴん名詞の機能および「は」と「が」の話」浦安市国際交流協会(UIFA)日本語グループ 2016年度第3回スキルアップ講座(2016年11月26日)

中井延美 「名詞句の「形」がもつ定的・不定的特徴について 日英語間で見られる不均衡さの仕組みを意味・解釈との関係性から再検討する」日本英語文化学会第18回全国大会(於 昭和女子大学)(2015年9月11日)

中井延美・西山佑司 “Interpretation of the antecedent for a pro-form” 第14回国際語用論学会(IPrA)(於 Antwerp, ベルギー)(2015年7月31日)

中井延美 「英語にあって日本語にないもの」浦安市国際交流協会(UIFA)日本語グループ 2015年度第3回スキルアップ講座(2015年1月25日)

中井延美 「日本語にあって英語にないもの」浦安市国際交流協会(UIFA)日本語グループ 2015年度第4回スキルアップ講座(2015年2月22日)

中井延美 「「私は浦安市民です」と「住まいは浦安です」」浦安市国際交流協会(UIFA)日本語グループ 2014年度第2回スキルアップ講座(2014年12月7日)

中井延美 “Why you can't order beer saying 'I'm beer' in English?” 第13回国際語用論学会(IPrA)(於 New Delhi, インド)(2013年9月9日)

中井延美 “On grammatical

definiteness of Japanese noun phrases”
The 11th Annual Conference, Hawaii
International Conference on Arts &
Humanities (ホノルル)(2013年1月
12日)

〔図書〕(計2件)

中井延美 「日本語と英語における定表現・不定表現の具現形式について」『英語文化研究』日本英語文化学会 pp.274-284 (総頁303). (2013年)

西山佑司(編)『名詞句の世界 その意味と解釈の神秘に迫る』ひつじ書房(総頁597). (2013年)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中井 延美 (NAKAI, Nobumi)
明海大学・ホスピタリティ・ツーリズム学
部・准教授
研究者番号：30406384

(2) 研究分担者

西山 佑司 (NISHIYAMA, Yuji)
慶應義塾大学・言語文化研究所(三田)・
名誉教授
研究者番号：90051747